慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	内池廉吉著 交戦国の財政
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.12 (1918. 12) ,p.1784(150)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19181201-0150

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

らざるの觀あり。博士は支那の通貨が統一を缺き日常の取引をして煩瑣複雜ならしめつゝある弊害をば實例を以て指摘し、貨幣制度の改革が同國の經濟的發展上一大急務なる所以を說述し、當局者が誠心誠意を以て着々実行に當る可きことを懇願せり。されど、其改革の方針に就きては著者は在來の金爲替本位說を排して、金本位制の採用を唱へ、且つ其の實施に關しては百害ありて一利なき願問制度を適用せずして既に支那の稅關及び鹽稅事務に於て良好なる成績を擧げたる督辦制度を援用して、我國より適當なる人物を招聘し、之に幣制改革の遂行を一任するの得策なるを力說せり。

而かも一國の貨幣制度を確實に維持するには其國が國際金融上に於て優勢なる地位を占むるを要するは勿論なり。然るに支那は鉅萬の對外債務を負へるにも拘らず、毎年多額の輸入超過を來しつゝあり。從つて經令同國が幣制を改革するとも國民經濟が今後大に發達して國內の金融が潤澤となるに非ざれば一旦統一改革せられし貨幣制度は再び從前の混亂狀態に復歸するに至る可しとは著者が特に指摘し中華民國の爲めに憂慮する所なり。此點に關して博士は外國人に依りて行はるゝ富源の開發に對して制限を加へんとしつゝ同國當局者の淺見を嗤ひ、其の非經世家的態度に對し痛烈なる批難を加へたり。

以上は本書所論の一斑を紹介せるに過ぎざるが、要するに廻江博士の此近業は支那の經濟金融の實情を略叙するよりは寧ろ經濟政策上に於ける同國爲政者の失策を摘發し、同時に將來同國の進む可き正道を明かにするを主眼とせるものなるが如し。若し支那要路の大官が本書を繙かば、言々肺腑を突かるゝの思ひなきを得ざる可し。彼等果して著者の苦言を容るゝの誠意と度量を有せりや。

内池廉吉著『交戰國の財政』

大正七年十月神戸商業會議所發行
菊版百四十二頁非品

本書は神戸高等商業學校の内池教授が神戸商業會議所の囑託に依り英獨米三ケ國の戰時財政の實狀に就きて調査せる所を載せたるものなり。著者は此三重要交戰國が開戰後支出せし戰費の總額を明かにし、其の中何割が增稅に依り、何割が公債に依りて調達せられしかを指摘すると同時に、數次に亘る增稅の內容を敍述し、且つ每回の公債募集額を明示せり。全篇記述簡なりと雖も要を盡せるが如し。手取早く英米獨の戰時財政の大要を知らんと欲する者には本書は一好參考書を提供せりと云はざるべからず。

山崎覺次郎著『改訂增補貨幣銀行問題一斑』

大正七年十月東京有斐閣發行
菊版五百九十三頁定價金參圓貳拾錢

山崎博士は去る明治四十五年一月中其前八九年間に『國家學會雜誌』、『法學協會雜誌』等の紙上に寄稿せられし論文中貨幣及び銀行問題に關する諸篇を一冊に集收し『貨幣銀行問題一斑』と題して發表し、同年五月中其の誤植等を訂正して之が再版を上梓せられしが、此回更に之に一大改訂を加へ、且つ初版發行以來最近迄に執筆されし論文を添加し其の第三版を公にせられたり。本書は即ち是れなりとす。今此新版の內容を舊版の夫れと對照するに、前者は項目の數に於て且つ分量に於て後者の二倍內外に當れり。此第三版に新たに收錄されたる論文中にはフイシヤー敎授の貨幣價値調節策、我國に於ける小額紙幣の發行及び金地金の價格の騰貴等に關する山崎博士の有益なる研究を載せたるものあり。本書に收錄されたる新舊諸論文は貨幣に關するもの大部分を占め、且つ此貨幣論の大半は貨幣價値を中心問題とせり。而して此興味多き貨幣價値論に關する著述としては研究の緻密、考證の嚴正、論旨の明瞭穩健なる諸點に於て邦書中或は本書の右に出づるものなかる可きか。

田尻稻次郎著『米穀經濟』

大正七年九月東京小西書店發行
四六版百八十三頁定價金壹圓貳拾錢

本書は米穀經濟に精通せらるゝ田尻博士が戰國に於ける米穀の供給を潤澤ならしむる爲めに採る可き種々の手段方策を略論する目的を以て著はされたるものなり。著者は冒頭米穀の不足が我國民の生活を脅かさんとせるの事實を統計を用ひて明かにしたる後、其の生產額は耕地整理、不毛地の開拓、煙炭肥料の使用、地下水の利用等に依りて尙ほ大に增加するの見込あることを指摘し、轉じて倉庫の改良或は二硫化炭素燻蒸、安全貯藏發、害蟲誘殺法等の手段を用ひて米穀の貯藏を安全に爲し從來の如き莫大の喪失を豫防するを得可しと說けり。更に消費の方面に於ても白米を廢して玄米を使用せば、消費高を七分五厘減ずるを得るのみならず、精白に要する勞力費銀を節約するの利益あるを力說せり。又、農業金融を圓滑ならしむる爲めには長期信用及び年賦償還制度の必要なる所以を論じ、最後に轉て我國に行はれたる地券制度の復活を慫慂し、參考の爲め千八百六十一年獨洲に於て發布せられたる我國の地券法に酷似せる不動產法一名トレンス法の內容を紹介して卷を結べり。